

であったと言われるような市長にぜひなっていたきたいことをお願いをしまして質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで5番、長信義君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩とします。午後は1時から開始いたします。

午前11時58分休憩

午後0時59分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） こんにちは、2番議員、会派清風会の脇本啓喜です。質問に入る前に、せっかく立派なのを議長がつくっていただきましたので立てさせていただきます。

新たな手法で対馬を島外にPRいただいた事例を紹介いたします。私と島居副議長が5月に上京した際に紹介された方の御厚意で、去る8月25日に東京都港区の超高級マンションで開催された納涼祭において、対馬の特産品販売や歴史や自然をPRさせていただきました。東京対馬会を中心とした在京対馬出身者有志や、東京対馬会に参加いただいたことのない方々が、フェイスブックを媒体として大勢手伝いに来ていただき、大盛況だったそうです。対馬在住者が中心とならない新たな取り組みを始めていただいた関係各位の皆様がこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

それがきっかけで農水省関連NPOの代表から20万人規模の人が来場する東京ビックサイトでのイベントブース、1日約15万円相当を無料で提供するので、10、11、12月の3カ月、それぞれ3日間程度対馬の宣伝をしてみないかとの御提案をいただいております。

農水省と関連が深い業界新聞への広告出稿が条件となっているようですが、NHK関係の子会社がかかわっているようで、NHKからの取材等も確保していただけるようです。ぜひ前向きな検討をお願いいたします。

さて、通告に従い、質問を始めます。

まずは市民の島内移動の手段確保として、地域間格差の是正について質問を行います。この件につきましては、NPO法人ハートフルサポート理事長佐伯氏の作成のレポートを大いに参考とさせていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

1、外出支援サービス等の充実と地域間格差是正・緩和策について。本市の面積は県内最大で181もの行政区を有しています。しかし、それらをつなぐ脆弱な公共交通機関整備は古くから改善されていないというよりは、ますます深刻化している大きな問題の一つです。

本市においては、他の県内離島よりもさらに速いスピードで高齢化が急速に進行しており、今後も加速することが予測されています。数年前までは若者の島外流出が問題視されていましたが、いまや老後の日常生活の不便さに耐えられず、退職後に島内から離れていく方々も少なくありません。あるいは、島外在住の子供たちが年老いた親だけで生活させることに不安を覚えて親を呼び寄せるなど高齢者の島外流出も人口減の大きな問題となってきました。

(1) 外出支援サービス等の現状認識について。いわゆる交通弱者、とりわけ通院患者の島内移動手段の現状について、まずは考えられる交通手段について整理します。

資料1は、対馬市の外出支援として従来利用されてきた交通手段を分類し、その特徴をあらわした表です。

ア、マイカー（家族運転も含む）。利点は、料金が無料、自宅で乗降できる。乗り降りできる。気兼ねが少ない。だれでも利用できる。問題点は、配偶者の高齢者ドライバーが多い。代わりのドライバーがいない。ドライバーは仕事を休まなくてはならない。

老老介護の増加が顕著になる中、ドライバー自身も入院が必要にもかかわらず、配偶者を通院させなくてはならないため、入院もままならない方も少なくありません。また遠距離の別居家族による送迎はドライバーの負担も大きいものです。独居高齢者世帯や高齢者夫婦世帯がふえている対馬では、家族の助け合いにはもう限界が来ていると思われます。

イ、路線バス。利点は、料金が安い。だれでも利用できる。問題点は、便数が少ない。バス停までの距離が遠い。比較的小さい。重病者には身体的負担が大きい。

路線バスの定額フリーパスポートや障害者割引は、高齢者や障害者の方にとっては大変ありがたいサービスです。しかし、自宅からバス停までが遠い人はバス停までの交通手段を別に確保しなければなりません。

また島内を走るバスはバリアフリー化されておらず、シルバーカーや大きな荷物を抱えた高齢者、つえをついたり、大きく腰が曲がった高齢者が乗り降りする姿を見るたびに、実に忍びない気持ちになります。その都度運転手は手を貸すことができず、運転席から見守るだけです。坂道が多く、しかも補修が行き届いていない対馬のガタガタ舗装道路では、情けないことにノンステップバスでは道路に車両がこすれるため、近々久しぶりに新規購入するバスもワンステップバスしか導入できません。

ウ、タクシー。利点は、自宅で乗り降りできる。時間に制限されない。だれでも利用できる。手続不要。早い。問題点は、料金が安い。介助サービスがない。

タクシーは自宅から目的地までに安全に自由に移動できる非常に助かる交通手段ですが、料金が安く、年金収入に頼っている高齢者にとっては大きな負担です。特に遠距離通院者には高額負担となり、とても利用できません。要介護認定を受けてない高齢者は、わざわざ通院日を合わせ

るなどして複数名で割り勘利用するなどの工夫をしていらっしゃいます。

エ、介護タクシー。利点は、自宅で乗り降りできる。時間に制限されない。手続が不要。早い。介助サービスがある。利用目的に制限がない。問題点は、料金が割高。利用者が制限される。

介護タクシーは車いす利用者にとっては、安心して利用できるサービスです。しかし、要介護・要支援認定を受けている方、または障害者に利用者が限定されており、料金も一般のタクシーと大差ありません。事業者は一般用旅客自動車運送業の許可が必要です。

オ、介護保険法に基づく通院等乗降介助サービス及び障害者自立支援法に基づく通院等乗降介助サービス・通院等介助サービス。利点は、料金が安い。自宅で乗り降りできる。介助サービスがある。問題点は、利用者が制限される。利用目的や地域が限定される。

通院等乗降介助は、訪問介護事業所が実施するサービスで、要介護認定を受けた高齢者や障害者に限って利用できます。片道の利用者負担金は1割負担で100円です。通院等介助サービスは時間単位で30分未満であれば、利用者負担金は254円です。しかし、病院から近い住人に利用が限定されており、要件を満たしても多くの方は利用できていません。事業者には、道路運送法第78条に基づき、運輸局への登録が義務づけられています。

カ、対馬市の条例に基づく外出支援サービス。利点は、料金が安い。自宅で乗り降りできる。問題点は、利用者要件が厳しく利用者は限定的である。手続が複雑。利用目的は医療機関への通院・入院、福祉施設への入退所のみです。

このサービスは対馬市社会福祉協議会厳原支所のみ委託し、提供されています。1回の料金は1割負担の500円と、安価な送迎サービスです。ただし厳原市街地近隣の方しか利用できず、しかも一般市民には手続や利用条件が非常に複雑で利用しづらく、利用者はあまりいません。利用できる人は「おおむね65歳以上の老衰、心身の障害及び傷病等の理由により臥床している者又は車いすを利用している者」であり、「一般の交通機関を利用することが困難なものとする」となっています。加えて、「ただし、介護保険法又は障害者自立支援法に基づく通院介助に係るサービスを利用できる者については医療機関への通院利用対象者から除くものとする」となっており、前述、オのサービスを利用できる人は対象外であり、寝たきり状態で福祉車両でしか移動できない人しか利用できません。

キ、デイサービス利用時の送迎サービス。利点は、料金が無料。施設利用日が決まっているので計画が立てやすい。問題点は、あくまでも事業者の自主的サービスである。デイサービスを利用できる程度、健康な方に限られる。

これはデイサービスを利用するついでに近く医療機関まで送迎してもらうものです。利用者にとっては、施設利用料金と別途費用がかかるわけではないので大変助かります。介護保険上定められたサービスではなく、事業者が自主的に行っているサービスです。施設入所者を通院時に

無料で送迎しているのも事業者の自主的なサービスです。人工透析患者も施設入所者は通院送迎をしてもらえますが、実際は対馬市内の介護保険施設の多くが人工透析患者を受け入れているわけではありません。

ク、知人等による送迎。利点は料金が比較的安い。自宅で乗り降りできる。顔なじみで頼みやすい。だれでも利用できる。問題点は、高齢者ドライバーが多い。代わりがない。脱法行為誘発性もある。

知人等による送迎はマイカー以外で最も利用されていると思われます。高齢者ドライバーの事故は頻発しており、安全性の面からも問題があり、今後安定的に利用できる交通手段とはなり得ないでしょう。

ここまで、私の現状認識に特に異議がなければ答弁は不要です。

②合併後の外出支援サービスにおける地域間格差の現状認識について。①でも既に述べたように、合併後10年近くなるにもかかわらず、住民サービスの地域間格差は放置されたままの部分がまだまだ多く残されています。

資料2は、対馬市における入浴サービス、外出支援サービスの状況を市役所の福祉課がわかりやすく簡潔にまとめたものです。入浴サービスは通告外ですが、やはり厳原地域に限定されています。私の祖父は100歳で透析を始めて103歳まで自宅で生活し、亡くなりました。入浴はデイサービス利用日にお世話になって大変助かりました。おむつ交換等は慣れれば何ということはありませんでしたが、亡くなる二、三カ月前はデイサービスにも通えないようになったため、我が家でも入浴させるのには苦労していました。ましてや老老介護の家庭の苦労を思うと本当に不憫になりますが、時間の都合上、今回は外出支援サービスに絞って質問を続けます。

資料2のように、対馬市における外出支援サービスは、移動支援、通院介助、単独事業の外出支援サービスに概ね分類できます。やはりどの分類においても利用可能地域が中心市街地地域に偏在していることがわかります。片やほとんど負担なしで、一方は1回に何千円も出して通院するしかなく、同じ対馬市民でこの差はあまりにもひどい状況です。受託事業者が遠距離の通院乗降介助サービスをしなない理由は採算がとれないからであり、受託事業所は責められません。利用者の負担が1割の100円であっても、事業所にはその10倍の1,000円が1回のサービスで報酬として入りますが、それでも片道50キロ近くかかる送迎は赤字です。社協厳原支所委託事業について、一般の市民はこんな制度があることさえ知らされていません。市民が広く知れば、不公平感が顕在化し、利用者がふえると赤字がますますふえて困るからでしょうか。

外出支援サービスにおける地域間格差の現状について、私の認識と相違があれば答弁を求めます。

③外出支援サービスの充実や地域間格差の是正に向けた取り組みについて。①、②で述べた現

状を踏まえて、どのようにして地域間格差の是正、あるいは緩和を図ろうとしているのか答弁を求めます。

誤解してほしくないのは、全島平等にできないのならば、現在実施中のサービスを停止しろという対馬弁で言う「エセギ」で言っているわけではありません。合併後、住民サービス基準の市内統一化が図られてきたものもありますが、安易な基準の格下げや全廃を行う前に、事業の必要性や効果を真摯に検討し、適正なサービス基準を早急に設定すべきと考えます。

資料3は、①のカ、対馬市が市の条例に基づく市単独事業を社協厳原支所に委託している外出支援サービスの利用状況と今後の方針を市役所福祉課がまとめたものです。また私がお願いして市内の福祉施設の福祉車両保有状況を調査し、取りまとめていただいたものです。

この資料で赤い部分、今後は通院介助、移動の支援が利用できない地域を外出支援サービスでカバーできないか、また市の事業から民間サービス事業所へ事業主体を移行することにより、地域間格差が解消できないか、関係者と協議を進めていきたいとうたっていることから、いつまで何をどのように行うのか、ロードマップを早急に作成するよう半年前に市の担当課に依頼しています。

また黄色い部分、この資料によると、市内各地の福祉施設に外出支援サービス提供が可能な車両が都合40台もあることがわかります。特に人工透析患者等の週に3回も通院している人たちのことを考えるとこれが利用できればなんと本当に気の毒としか言いようがありません。今現在、まさに移動手段に大変困っていらっしゃる方がいることを念頭に置いて、スピード感をもって早急な計画作成を要望します。

資料4、さらに既存の事業所を活用する以外にも、市内で始まった「福祉有料運送」という新たな取り組みを紹介します。

ケ、福祉有償運送。利点は料金が比較的安い。自宅で乗り降りできる。手続きが簡単。利用者制限が比較的緩い。利用目的が比較的緩い。事業化の手続きが比較的簡単。介助サービスも可能。問題点、市民サービスに実態が周知されていない。公費負担がない。既存業者との利害関係の調整が必要。低廉な運賃設定を強いられるため長距離運送は困難。

また認知度が低いサービスですが、平成18年施行改正道路運送法に基づき、国土交通省が推進し、徐々に広がり始めています。対馬では豊玉に事務所を構えて、ケアマネージャー有資格者を保有するNPO法人ハートフルサポートが年初から始めています。これは有償ボランティアによるドア・ツー・ドア、マン・ツー・マンによる送迎サービスであり、このサービス自体は利益を目的としていません。運輸局に登録をしなければならない点や、利用者が要介護者、要支援者、障害者に限定される等は介護タクシーと共通しています。しかし、既存の交通機関の利用阻害を防止するとの理由で、燃料費等実費範囲内の低廉な料金設定をして市の運営協議会での合意が必

要とされている点が異なっています。

ドライバーの資格は福祉車両と一般車両を使用する場合ごとにおのおの規定があります。病院関係者から軽自動車、介護タクシーに付き添いの介護家族が助手席に乗り、後部座席に寝たきりの患者を寝かせて通院した際、様態の変化に気づかず、病院に着いたときには様態が極端に悪化していたという例もお聞きしました。既存の福祉や医療施設等には保有する高機能福祉車両の有効活用という観点からも要支援度が高い方を、また要支援度の中程度の方については介護タクシーや福祉有料運送事業者それぞれ事業として成立する程度の公的支援を導入してサービスの充実を図りつつ民間事業者へと事業主体を移行させる、さらには地域間格差を是正、緩和も図っていくというすみ分けも早急に検討する必要があるとは思われます。

以上の質問内容を踏まえて、外出支援サービス充実と地域間格差の是正を図るためのロードマップ作成の必要性について答弁を求めます。

(2) 健全交通弱者への日常生活移動支援策について。厳原・雞知市街地間のシャトルバス運行やデマンドバス構想について説明を求めます。

財部市長就任以来、対馬市地域交通検討委員会を活用し、定額フリーパスポートや乗り合いタクシー、スクールバスの住民混乗等を実施し、成果を出していることについて、私は一定の評価をしています。全市民が同じ条件で住民サービスを楽しむことは対馬の地勢や財政を勘案すると困難であることは理解できますし、新病院建設に伴う市街地衰退対策にも欠かせない重要な課題であることも十分承知しています。

しかし、交通弱者対策のおくれは、現役世代の老後への不安を増長させており、子供たちを島に呼び寄せようという思いを断ち切らせる要因にもなっています。中心市街地の交通アクセス充実施策とますます格差が広がる交通空白地の交通アクセス充実施策のバランスへの配慮も要望しておきます。

大きな2番、5つの循環システムの構築について。このことについては、詳細な答弁を求めつもりでしたが、この5つの循環システムの質問に関しては短い時間で市民に理解していただくのは困難であろうということで、担当部局の桐谷政策監から市広報やケーブルテレビで詳細に周知する旨の約束をいただきましたので、今回は簡単な概略説明で結構です。ただし、議会全員協議会等で議員への詳細説明を要望しておきます。

以上、長くなりましたが、答弁をお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 協本議員の御質問に答えさせていただきます。

協本議員の現状認識に特に異議がなければ答弁は不要ですとおっしゃられた部分がまずありました。現状認識については、私どもも同様の思いでございますので答弁は控えます。

それと、外出支援サービスにおける地域間格差があるこの現状認識でございますが、制度の使える範囲とかさまざまなものにおいて地域間格差が起こっているということについても認識は全く同じでございます。

そういう中、繰り返しになるかもしれませんが、今の対馬の移動する、もしくは公共交通という考え方に至ったとき、今この体系というのが崩れていってる状況であります。人口減がもたらす経営不振というのは一番大きなところにあるのかなと思っておりますし、その交通事業者である対馬交通さんがそこを担いきれなくなって、市の赤字補填の補助金というのが高率で出さなければいけないという状況。そうじゃないと市民の足が確保できないという思いです。そういう中、少し補助を出しても出しても便数的な問題で、さらに不便になっていってるという認識をしております。そういう状況。

そして、片や高齢化が進む中で、フードデザートとかあいう問題。買い物難民が生まれていく状況というのが垣間見られています。これをどうしていけばいいのかという思いで昨年度の当初予算からもそのような対策ということをやっつけていこうじゃないかというふうな思いをしておりますが、うまく回らない部分がいっぱいまだまだあります。

そこで考えましたのが、この私、選挙で皆さんにお示しをしました5つの地域資源循環システムの中で、地域コミュニティによる循環というものを outsourcing させていただいております。これは先ほどから申しますように、公共交通が崩れていくものを補完していく、さらに地域の方々のやはり汗もかいてもらわないといけない。そうじゃないと、そこに残されるお年寄りがどんどん寂しい思いをし、さらに島外から子供さんたちから、そこに住まわしとくわけにいかんみたいな考え方の中で、やむなく内地のほうに行かざるを得ない。もしくはふるさとを離れなくてはいけないというふうな状況が起こらないようにするために、この地域バスというものを組み立てを入れておるところであります。

なおかつ、ただ交通弱者の足確保ということだけではなくて、ドア・ツー・ドアみたいな物事の考え方。要するに見守りネットの部分のこれからは加味していかないと、安心して生活ができないんじゃないかというふうな思いでこの循環図をつくり上げております。

そういう中、先ほど御評価いただきましたけれども、スクールバスがある程度自由度が高まるということが、この1年かけてやっと総務省のほうで結論を出していただいたということは、このコミュニティバス等のつくり込みというのも大変助かるなという思いをしております。そのことがまた引き金となって、先ほどおっしゃいましたロードマップの作成というのにも足かせがなくなることによって早まっていくものと思っております。

今、職員皆でこの地域コミュニティのPTを立ち上げて部会も動き出しております。どうかこの高齢化の中で皆さんの足を確保する、また通院等のことも考えていくということもきちんと視

野に入れて取り組んでいきたいと思っております。

また先ほど福祉有償運送のお話がありました。この件につきましては、たしか4月末でしたか、ちょっと日付ははっきりしてませんが、わがまちの補助金の市民特認事業の中で、NPOさんがこの福祉有償運送のサービスをしていくための、たしかドライバー育成事業だったと思うんですけども、それに手を挙げてプレゼンテーションをされた記憶がございます。そういう中、市民の方たちもその市の事業の必要性、もしくはそういうドライバーを育成を今のうちにしとかなないと後が困るということを市民の方も認識をされ、たしか一定の補助金の一部かもしれないが、されたと思います。それについては市民の考え方の中で補助金の削り込みがあったんだろうと思います。私は一切そこに入っておりませんので、お許しいただきたいと思いますが。市民の方にそのあたりの福祉有償運送というものの必要性というのをきちんと伝えていっていただいたということでも十分に意義あるプレゼンテーションではなかったかと思っております。

先ほど言いますような地域コミュニティバス、通院の関係、さまざまな——買い物に行くための問題——ことをクリアーするためには、この足を改めてきちんとつくり込み直しをしなくてはいけない時期が来ました。そういう意味において、私どもPTを組んでいるメンバーとは同じ共通認識に立っておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、ある意味社会保障制度との兼ね合いがあるわけですよね。先ほどいろんな制度があり、それぞれの制約があるということで、この方が使えてもその制度はまたBの方は使えない。しかしBの制度はBの方が使えてもCの方は使えないと、さまざまな問題がここにあります。しかし、今回、国会で通りました社会保障と税の一体改革の中で、実は消費税を新たに8%、10%にするという議論とは別に、この成立の過程において、私ども地方のほうからこの社会保障に係る地方単独事業を含めた社会保障全体を捉えた議論が必要だというふうなことを市長会として提案してきました。そういう中、あの消費税の率の中で、地方単独分というのを改めて別建てで組み込んでいただいたというふうに私は理解をしております。

今この一体改革というものがどこに転ぶかわからない政局みたいな感じもいたしますが、いずれにしても、今後国と地方の協議の場等において、地域の実情とか過疎自治体における実情というものをしっかりと伝えていながら、今のA、B、C、Dとかいろんな制度というものの不整合みたいな部分ですね、そして格差というものを訴えていきたいと思っております。国に対してそのような制度要求はしっかりとやっていきたいと思っておりますし、それ以外にも先ほど申しますように、この循環の中で皆さんの足を確保する方法というものをしっかりとつくり込んでいきたいというふうな思いで進んでおるところであります。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） 簡潔な答弁ありがとうございます。それから、まずわがまち元気

創出支援事業ですね。意義あるプレゼンだったという評価をしていただいているようですが、私も不勉強だったんですけど、最近になってこの福祉運送業というのを勉強させていただきました。この対馬の実情に合った形でうまく活用できればいいなというふうに思ってますんで、これからもお互いに勉強して、どういうふうにしたら市民の足が確保できるか、バスという大きな形ではなくて、市長が言われたドア・ツー・ドアでできる、そういうものを必要としてらっしゃる方もあります。それぞれ必要なものを提供できるような、そういう形をつくり上げていくように努力していただきたいと思います。

市長は、選挙前の公約や所信表明の中でも、地域やNPOなどが運営する地域コミュニティバス運行を掲げられていました。そのような公共交通維持活性化と並行しつつ、それとは別に対馬市の財政や地域特性にふさわしい交通システムの構築が今言ったように必要であると思います。

市民基本条例第9条においてもNPO等への支援も明記されています。行政に頼るばかりでなく、地域の問題をみずからで解決していく考え方が全国各地で高まっております。さっきの佐須のことも一緒だと思います。その中心となる組織の一つとしてNPO等の団体が期待されています。その具現化の一步として、福祉有償運送のような市民みずからがボランティアとして参加活動し利用する、市民が平等にその負担を分担する仕組みの普及を支援し、それを対馬全域にネットワークの形で広げていくことができないでしょうか。

また一昨年、高齢者の買い物難民対策として予算化をしていただいたものもありましたが、全く手がつけられずにそのままになっている、先ほど出ました食の砂漠化、「フードデザート」対策についても関係部署で横串の連携をとりながら早急な対応をあわせて要望します。

それから、5つの循環のことについてなんですが、くれぐれもケーブルテレビ等で市民の周知をよろしくお願いいたします。

その中で、その循環システムの中で生ごみ循環PT——プロジェクトチームの担当が、市民生活部となっていますが、そこにもう一つ、漂着ごみ循環PT——プロジェクトチームを加えることを提案します。

資料5と6。先日、昨年9月に可動式油化装置を対馬で公開実験を行った、日本マリンエンジニアリング学会から、画期的な漂着ごみ処理システムを提示いただきました。簡単に言うと、漂着流木を燃やす際の排熱を活用し、発泡スチロールを溶かして小さくするという流木木炭化と漂着発泡減容化のコラボです。ただし、たっぷり塩水を含んだ流木をそのまま燃やすと、有毒なダイオキシン等が発生します。

そこで、資料7。その対策として好塩菌として知られる、市長も一生懸命取り組んでいらっしゃるEM菌を流木に散布することで脱塩ができます。この脱塩方法は、仙台市のEM菌による塩害対策実証実験で実証されています。それが右側の見事に実った稲穂の写真です。左側の写真は、

東日本大震災の塩害によって5年くらい稲作は無理だろうと言われていた震災直後の実証田です。

次に、その脱塩した流木で木炭製造する際の排出熱で市民から回収した廃天ぷら油を沸かします。そこに漂着発泡スチロールを投入すると、10分の1から数十分の1に体積が減容化されます。その際、排出されるガスは無毒ですが、悪臭が出るためダクトを通してバクテリアを入れた土壤に流し込み脱臭します。この脱臭方法も鹿児島で魚介類の残渣処理で既に実用化されている方法です。「地産地消」、「地産地消」という運動から、遠距離輸送を伴う食材を控える「フードマイレージ」、排出した廃棄物の近円処理を促す「ウェイストマイレージ」という言葉も徐々に広がり始めています。

今回紹介した流木木炭化と漂着発泡減容化のコラボは、島内で処理不能な廃棄物を北九州市まで海上輸送している対馬市にとっては、一石二鳥どころか三鳥四鳥にもなる夢のような構想だと思います。本日、そのマリンエンジニアリング学会の会員の方が環境省の九州の出先機関に装置の説明に行かれています。市の担当者をその学会に派遣し、各装置の早急な調査をお願いしたいと思います。

この件について何かございましたら。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今まで私ども漂着の漂着物としての流木処理というのに大変頭を悩ましておりました。クリーンセンターのほうに入れることもできず、ダイオキシン発生ということが心配されましたので、島外への搬出ということに、これは処理をしていたわけですが、今のお話を聞く範囲におきましては、そのようなものが確立したんだということであれば、島内でこの部分がすべて完結してしまうということのお話のようであります。

また今この場で聞いて、「いや、素晴らしいですね、いや、それは」ということにもなかなかなりません。今提案いただきました件につきましては、担当のほうも研究をさせたいと思います。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） 昨年の9月、可動式油化装置を神戸大学の船で厳原港に運んできたときも、担当部長等見に来ていただきました。そのときやはり一番興味を示されたのが、発泡スチロールが小さくなる、そのことについて興味を持っていただきました。これすべてということでもなく、今対馬市が一番必要としている部分ですね。そこからでも結構ですので、市長が出張するだけでなく、担当部署の旅費もしっかり取っていただいて、調査研究ができるようにしていただければありがたいと思います。私は三重県まで行って、ロート製菓の大型の油化装置を見てきましたけども、やっぱり百聞は一見にしかずと言います。旅費使っても勉強になったなというふうに思っておりますので、またそういう姿勢で職員を送り出していきたいと思っております。

この減容化したこの発泡スチロールですね。これと、これだけでつくっていると、発泡スチロールだけでつくっているとは今峰の櫛にある形、スチレン油という形、これではなかなか足湯のボイラーもなかなかうまく動かせなかったという、あまり質のいいものがないんですが、この中にポリ袋などのポリエチレン製のごみと一緒に入れると油の質が上がるのがわかっております。それはもう担当の部長たちも来ていただいております。その形をできる可動式油化装置を昨年9月に持ってまいりました。それはさっき「ウェイストマイレージ」と言いましたが、各地で集めたものをどっかに持ってくるんじゃなくて、そこまで軽トラックに積んで処理もできるというものです。1基、大したお金もかかりませんでした。製作してる人のあれがあるので金額まで言いませんが、担当部長は御存じなはずです。よく聞いてみてください。

これに入れると、スチレン油とは比較にならないA重油レベル以上の良質な油が生成できます。これだと市の定期航路の船の燃油や、さっきプールの話がありましたけど、そのプールの温水化の一助となる可能性もあるとは思いますが。それほどたくさんできるかどうか、それほどたくさん流れてきてもらっても困るんですが。まあそういう可能性もあるということです。

先ほど元気創出支援事業のことを言われましたけども、今回提案したその福祉有償運送と、それからこの流木の木炭化事業、これも元気創出支援事業の対象として一部採択いただいたものです。いま一度さらなる支援ができないか、ぜひ検討していただきたい。この2つの提案を、理事者側だけではなくて、議会としても、特に厚生常任委員会において積極的に調査研究をいただきますようお願いして質問を終わりたいと思いますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今提案いただきました件、そして福祉有償運送の件につきましてもNP
O法人という、ある意味新たな法人、新たと言いますか、社会の枠組みの中で新たな法人が、そのような取り組みというのはどんどん出てきている世の中です。

よく「新たな公共」という言葉が聞かれると思います。また最近私は、島おこし実践塾、議員さんも最終日お越しになっておられましたけども、あのときに来ていた塾生の、東京から見えてた出版社の方から、実は一昨日日本が送ってきまして、それが初めて聞く言葉でしたけども、「プロボノ」という言葉でした。カタカナです。新しい価値観なんだろうけども、「プロボノ」ということでした。

要するに、今までの新しいものに対しての寄附、何かこう同意して同調して寄附をしたりということだけではなくて、そこに対して参画して汗を流し、価値観を共有していくとかいう時代がすぐそこにもう来たよというふうな、ある意味——まだ何十ページしか読んでませんけども、そういうふうな感じの価値観がすぐそこに来ているよというふうな話でした。

要するに、それこそ新しい公共のまた仕組みなんだろうと思います。私ども行政だけで物事が

できるとは到底思っておりません。そのような新たなところ、価値観に立って物事を組み立てていく方たちとのタグというの、常に行政として考えていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） 最後と言いましたが、せつかく2分ありますので、もう1点。この5つの循環システムを推し進めていく中で、今までの仕事と別にプロジェクトチームという形でやっていくということは、職員の負担もふえていくはずで、職員の数も減っていても仕事の数も減ってないはずで、むしろふえていると思います。それは、部長、課長、管理職の腕が試される時だと思います。県からの報告の要請があったから、すべてやる、やればよいです。この前のがれきの処理の問題、対馬でどれだけ処理できるか計算をして出してほしいというふうな県からあったと聞いています。そのとき、わざわざ計算して出したということをお聞きしましたが、人道的には、心情的には受け入れたいという気持ちもわかります。しかし、現実的に対馬にがれきを送るということとなると、費用等を考えると、ましてや先ほど言ったように北九州にこちらは廃棄物を送っている、そういう状況です。実際に受け入れることがないものを計算させる、それは市長、または部長、そのあたりの方が「対馬を除く」と一言書いてくださいと県に申し入れるぐらいのそういう気持ちで職員の仕事の軽減というか、優先順位をつける、そういうことも必要だと思います。

市長、職員が働きやすい環境をつくっていただくことをお願いして、今度こそ最後のお願いとして終わりたいと思います。

○議長（作元 義文君） これで2番、脇本啓喜君の一般質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を2時5分から開会します。

午後1時50分休憩

午後2時04分再開

○議長（作元 義文君） 阿比留梅仁議員が早退の届け出があっております。

再開します。

最後の質問者になりました。17番、大浦孝司君。

○議員（17番 大浦 孝司君） 一般質問がきょうは最後ですが、私は脇本議員と比較して、質問時間は半分以下にいたします。ですから、すぐ終わりますので安心してください。気安く説明いたします。

それでは通告に従い、市政一般質問を行います。